

長尾 和宏 先生

初めまして。いつも先生の御本を読んで勝手に惚んだり、励まされたりにしている ファンというか 読者の一人です。

先日、久しぶりに本屋へ行き、たんとまた読んでいた先生の本を見つけました。“長尾先生、『近藤 誠理論』のどこが間違っているのでしょうか？”です。中の人ガキのアンケートを記入したから、いつも人ガキだけでなく 思いきってファンレターを出してみようか…と思っ、ペンを取った次第です。

私は長い間 ガン患者です。読書が好きなので ガンに関する書籍もたくさん読みました。長尾先生の本も近藤先生の本も 確かな情報も 不確かなものも…

笑わないで下さい。“大腸癌ガイドライン”も読みました。

先生は 作家というよりは お医者様なので、病歴も含めて 自己紹介をしても良いでしょうか。

6年前、          の時に S状結腸癌と診断され、原発とリンパを多数取りました。その後ちょこちょこと転移し、毎月4回目となる手術を終えたばかりです。卵巣、子宮、肝臓、胆のう…そして 別物と思われる 直腸癌も発症し、取った内臓の重さでは かの逸見さんにも負けません。当然、ステージIVなので 化学療法もほとんど経験しています。

フォルフオックスび ア+フィラキシー、アビスタンで血を吐いた以外は たいたい標準治療はできていると思います。私の主治医は 長尾派でもむしろん 近藤派でも無く、普通のお医者さんです。この辺りでは一番大きい 市立病院で、手術も化学療法も

緩和ケアも全部主治医である外科医が診るという典型的な田舎の癌拠点病院である。私は始めからずっと同じ主治医に診てもらっています。同じ年の主治医はまずは自分の病気を知って、治療についても勉強するようにと最初にガイドラインを読むことをすすめてきました。頭でかちどり疑い深い私は、これ程進んだガンに標準治療がほんほのむんだ... と思いましたが、今思えばこの治療のベースを植えてくれた主治医には感謝しています。理想でしたが、多少不確実でも確かな技術と我々一般人が知りえない医療の知識を出し惜しみなく与えてくれるお医者さんに診て頂きたいと思っていましたので、特に自分で選ぶことが出来たわけでは無いのですが、この主治医との出会いは病気という不運にみまわれた私のたったひとりの幸運であったと今改めて思います。

彼の持つ確かな技術が何度も私を蘇らせ、お互いもうダメだと思っても運が味方してくれたのか、5年という年月を生き抜くことが出来ました。主治医を軸とするチームのスタッフと目に見えない何かで感謝しながら生きる毎日です。

ただ、最近悩んでいることがあります。愚痴にたりますが聞いて下さい。手術で転移癌を取った後、6週間以内に化学療法を始めることになりました。これまで副作用が辛くて入院治療が中心でしたが、このたびあまりに長く休んで仕事が出来なくなりました。術前化学療法もしていたので身体が回復していたからと、唯一使えるキートラッグのイリテカが何とか効かなくなってきた様に思えて主治医に

異議申し立てしてみました。お金も全然無かった私は、二日以上仕事を休まなくても出来ると、治療費が安いと、ストーマに皮膚障害が出ないことを条件に治療法はたいていのか聞いてみました。今回の手術で付いたストーマケアには不安がありました。バクテリクスなどの影響で肌が赤ボロボロの状態でしたので。主治医は譲歩してくれて「何もやらないよりは自分は良いと思うので…」と TS-1 内服のみを治療を提案されました。ただ今回はよく長尾先生が言うところの「やめどき」の話が支えなかったもので、逆に聞いたところ「それはとてもおもしろい問題だ…」で終わってしまいました。今までの治療も何かしら悪いところが起きて止めざるを得なかったり、そういうのは何回とかいつまでとか言われてもその通りに進んだ治療はひとつもありませんでした。それは私には抗がん剤は効いていないということだったので、たいていでしょうか。でももしかすると少しは効いていたからこそ、ここぞで生き延びることができているのかもわかりません。主治医は今回の治療はサドラインだと言います。フォーサインもあって、それは気安め程度の治療であることも私は知っています。抗がん剤を使っているにも再発に怯える毎日に変わりはありません。いっそ薬物に頼らさず、一時でも治療から離れて本来の自分に戻り人生を楽しむべきじゃないかとも思います。長尾先生、今回の止めどきは どう決めれば良いのでしょうか。それとも又神様が決めて下さるのでしょうか。小さい錠剤を見る度に長尾先生の「抗がん剤10のやめどき」の最後を思い出します。これほど小さい薬が私たちの命綱なんです。

今回の本にも登場する スキルスの瘦邊さんほど 私は治療に積極的では ありません。どちらかという逃げ腰で 勇気もありません。薬が効くのも 空くじに当た子様はもの… といつも思っています。信じれば 救われる程 甘くはないことを 知っているからです。

だからこそ 長尾先生には 私のような逃げ腰の患者に 関する価値があると。試して それ自分から やめることもできるとも、声を大に言い続けて 頂きたいのです。 同一年で 同じ病気で 一切の抗がん剤を 拒否している ガン友がいます。彼女は 今回のサツを 飲んでいますが、これは 抗がん剤ではないと 彼女の主治医は 言ったそうです。これまでに も、チャンスがあったのではないかと 同じ病いだからこそ そう思うところが あります。

書店に並ぶ 近藤先生の 本には 今でも 勢いがあります。

もうそろそろ グラフオフの方に 並んでも 良いのでは と思いますが… 確かに 自分勝手な 手紙に 付いて しまい 申し訳 ありません。

本当に 弱い 私ですが 「中庸を 生きる。」と 己の 考えに ぶれず、後悔 しない 人生を 目指す ことが 理想 ですね。

これから の 時代に 合った 医療の 見極め方を 私のような 頭の 悪い 読者にも わかり やさしく、 詳しいに 教え 続けて 下さい。

そして また 長尾先生 御自身も どうか 心身共に 健やかで 益々 御活躍 されまおう に 祈り 願って おります。

平成28年8月17日